

の 者
説 営
伝 経

入居者も家族もスタッフも
関わる誰もが幸せになるのが、
高齢者施設のあるべき姿

社会福祉法人合掌苑 がっしょうえん 理事長 森 一成さん

首都圏で3つの高齢者施設を運営する合掌苑。理事長を務める森一成さんは創業者の人柄に惹かれてこの業界に入ったという。人を大切にすると生産性の向上を謳い、社会福祉業界の環境改善に力を入れている森さんが考える高齢者施設の運営で大切なことはなにか、話を聞いた。

「関わったのなら最期まで」
受け継がれる創業理念

合掌苑のルーツをたどると、1950年まで遡ります。僧侶であった創業者が、東京大空襲で焼け出

された人々を東京・中野の龍昌寺という寺で世話したのが始まりでした。その後、1960年に町田市に養老院を建て、合掌苑と名付けました。

創業者は、厳しさはありつつも仏門の徒らしく慈愛にあふれた人物で、困っている人がいると私財を投げうってでも助けました。口癖は「とにかく最期までお世話をす

体現できているかなと思います。

事務方であった私が、創業者から苑を引き継いだのは、30年ほど前。当時は入居者60名、職員18名という比較的小きな規模で事業をしていました。その後、政府が高齢化対策として施設やサービスの整備を行い、介護保険がスタートするという流れの中で、合掌苑もグループ施設を徐々に増やし、現在では合掌苑に加え「輝の杜」「鶴の苑」という2つの施設の運営も行っています。

仕事へのやりがいと満足感が
入居者の幸せにつながる

私の信念は「スタッフの幸せが、

ご入居者様の幸せにつながる」というものです。そもそも皆さん自ら好んで不自由な身体になったわけでも、認知症になったわけでもありません。そしてその原因を取り除くのは、私たちではできません。できるのは「今の自分も幸せだ」と思ってもらうことです。施設でそれを叶えられるのは、毎日ご入居者様のそばに寄り添うスタッフたちだけです。

もしスタッフが、職場環境に不満を持っていたり、仕事にやりがいを感じていなかったりしたなら、ご入居者様に幸せを与えることなどできません。スタッフが「この仕事が好きだ」と思い、誠心誠意尽くすからこそ、皆さんが幸せに暮らせるのです。

合掌苑では、基本的に日々の業務マニュアルはありません。ご入居者様一人ひとりとスタッフが向き合い、何が必要かを自分で考え、行動しながら介護をしています。そうしてスタッフを信頼し、権限を委譲している点も、スタッフにとって仕事のやりがいや責任感のもととなっています。

労働環境にも配慮しています。例

えばシフトについても、出勤日を曜日で固定してローテーションを作り、6カ月先まで勤務表を確定させ、前もってスケジュールがわかるようにしています。また年2回、最大連続2週間の長期休暇があり、それを月に2名ずつ交代で取れるよう計画を立てているので、有給取得率も100%に近いです。夜勤専属のスタッフがいないというのも、ユニークかもしれません。日勤と夜勤を繰り返すような勤務体系は、身体にどうしても負担がかかります。育児休暇後に、日勤であれば復帰できるといふスタッフも多く、人材確保の面でも効果が上がっています。

業界最大の課題「人手不足」に
対応する。良好な人間関係

現在、介護福祉業界の最大の課題は人手不足です。介護福祉は現場に人がいなければどうにもなりません。限られた人材で、いかにご入居者様のお世話をするかというのは、どの施設も抱えている課題だと思います。

合掌苑では、「離職の予防」と「生

産性の向上」により人材不足に対応していますが、鍵を握るのが「職場の人間関係」です。スタッフ同士が反目しあっているようだと、その雰囲気は必ずご入居者様に伝わり、嫌な思いをさせてしまいます。連携が取れず、サービスの質も下がります。私たちはスタッフの心の教育に注力しています。うちの法人が何のために存在し、なぜ福祉介護の仕事をしているのか、やりがいとは何か。そうして「何のために働くのか」という本質や理念を伝えていくと、スタッフが同じベクトルで進めるようになります。このような教育もあり、合掌苑の職場の人間関係は良好に保たれています。離職率は9%と低く、チームワークにも優れ、生産性も上がっています。人手不足の業界にあっても、お客様に対して十分なサービスを提供することができていると感じます。

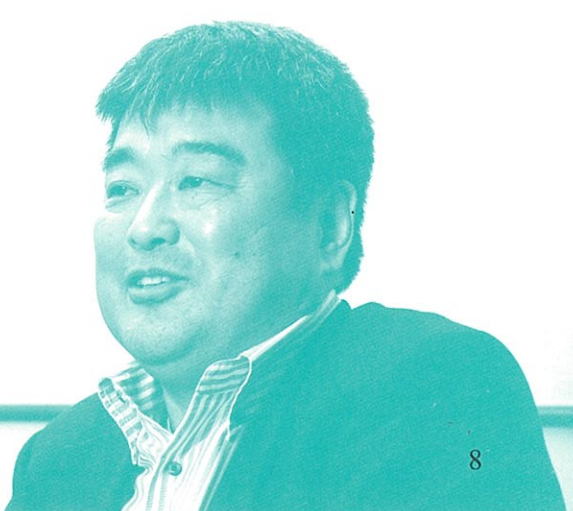
スタッフが満足して働ける、幸せな職場づくり。それが結局は、ご入居者様の幸せをつくる。今後もその信念に基づき、誰もが幸せに暮らせる施設を運営していきたいです。



社会福祉法人合掌苑
理事長
森 一成さん

IT企業のプログラマーを経て、合掌苑へ。2011年に理事長に就任し、高齢者施設の新規設立や在宅介護サービス事業を展開する。全国各地の団体や大学から、高齢者施設の運営をテーマにした講演依頼を受け、積極的に活動が続いている。著書に『介護経営イノベーション』（総合法令出版）がある。

アシステッドナーシング&リビング 鶴の苑の紹介は58ページをご覧ください。



移転した
介護フロアでも
顔なじみの人と
暮らせる幸せ



入居者
星野 恵子さん

「同じ施設内で、人生の最期まで過ごせる」という点に魅力を感じ、夫婦でマンションに入居しました。夫が先立ち、しばらくはマンションに住んでいましたが、ある日、転んで大腿骨を折ってしまい、そこから介護フロアに移りました。同じ施設内の移動ですから、顔なじみの職員の方やマンションのお友達もいて、不安なく介護フロアに移れました。選んでよかったと思います。



問い合わせ先：
アシステッドナーシング&リビング 鶴の苑受付
042-788-0544
<https://www.gsen.or.jp/tsurunosato/>

類型/ 入居時要件	介護付き有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、シニア向け賃貸マンション/自立(マンションのみ)・要支援・要介護
総戸数/居住 区分・居室面積	介護フロア:92室/全室個室(20㎡) マンション:23室/全室個室(50㎡~65㎡)
居室の 権利形態	利用権方式
入居時費用	介護付き・住宅型:798万円 マンション:1,380万円
利用料 支払い方式	月払い
食事等 月額料金	介護付き・住宅型:25万2,000円~29万6,000円 マンション:27万7,500円~42万6,000円
介護保険 の扱い	東京都指定介護保険特定施設(一般型)
介護に関わる 職員体制	2:1以上/夜間21時~翌7時 最少人員1名
食事調達方法	自前で調理(一部食材を委託)
住所/交通	東京都町田市南町田5-3-28/ 東急田園都市線「南町田グランベリーパーク」駅より徒歩約8分
開設時期/ 建築年数	2004年6月1日/ 17年
事業主体	社会福祉法人合掌苑

施設の特徴 1 職員の働きやすい環境で
10年以上の勤務者が23.6%

採用時には、3回の面接や職場体験などを行い、互いに納得して入社できるようにしている。また、勤務を固定化しシフトを半年先まで作成したり、日勤と夜勤を分けたりといった取り組みにより、働きやすい環境を用意。産休や子ども手当など福利厚生も充実している。それが職員の定着につながっている。



施設の特徴 2 専門フロアを用意するなど
充実の認知症ケアを実施



2階には、認知症に特化した専門フロアを設置。認知症ケア専門士の資格を持つ職員が多数在籍し、行動をできるだけ抑制せず、時間をかけてケアする。入居者が受話器を取れば常に職員につながる「黒電話」や、入居者の人生を1冊のアルバムにまとめる「ライフストーリーブック」など、心に寄り添ったケアを実践している。



上/黒電話にはいろいろな電話がかかってくる。都度スタッフが柔軟に対応する。下/ブックは1人1冊作成し話のきっかけにする

施設の特徴 3 看護師と介護士の連携を強化し
充実した看取り体制を構築

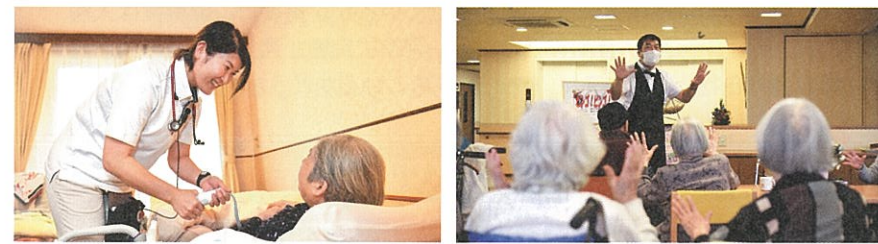
「もうどこにも移る必要のない安心と上質な暮らし」をコンセプトに、医療と介護の連携により、看取りの環境を用意。入居者の要望を記録するメモリーシートを活用し、看取りの際には、看護師と介護士が協力して、やりたかったことをできる限り実現する。そうして入居者や家族に寄り添ったケアを行ってきた結果、看取り率は87%の高水準となっている。

職員の労働環境もよく、夜勤専従の職員を雇用して日勤と夜勤を分けた勤務形態としたり、年2回、最大連続2週間の長期休暇があったりと、ゆとりをもって働ける環境だ。「スタッフが無理なく働ける環境が、ケアの質を高めています。スタッフを大切にすることで長く勤務する者が増え、それがご入居者様の安全安心につながっていくのだと思います」と営業統括本部長の神尾昌志さん。人材の入れ替わりの激しい介護業界にあって、10年以上勤務のスタッフが全体の23.6%を占め、定着しているというのは驚くべきことだ。定着率の高さは働く皆が待遇に満足し、やりがいを感じ、誇りを持っていることの現れでもある。そんな施設の入居者たちは幸せそうだ。

上岡榮信が評価するポイント

- 1 社長・理事長・経営陣の考え
- 3 スタッフ・職員・従業員の様子
- 5 認知症ケアのレベル

スタッフを大切にしている姿勢と
透明性の高い経営。
認知症ケアも高水準。



上/明るい雰囲気の外観。上階が自立者向けマンション。右下/介護フロアでは毎日レクリエーションが実施される。左下/スタッフの幸福度がサービスの質に現れる

「関わるすべての人を幸せにする」。そんなミッションのもとに社会福祉法人合掌苑が運営する「アシステッドナーシング&リビング 鶴の苑」。入居者が最期まで幸せに過ごせるような環境と仕組みを整えている。特筆すべきは施設が介護フロア、認知症専門フロア、自立型マンションの3つに区切られて、入居者の状態や希望に合わせてフロアを移り住めるようになってきている点だ。入口も異なり、自立者は自立者の、要介護者は要介護者のそれぞれの生活を守ることが出来る。夫婦で元気なうちに入居し、数年後にどちらかが介護フロアへ移るパターンも多い。1階にはデイサービスが併設され、プログラムに参加することも出来る。

- 自立 ゆったり
- 自立 きままに
- 介護 あんしん
- 介護 おねうち
- 介護 みどり

もうどこにも移る必要のない安心と上質な暮らし
アシステッドナーシング&リビング
鶴の苑



関わるすべての人の幸せを考えた
施設的环境と職場の仕組み